

令和4年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

- 日時 令和5年1月25日(水) 午後3時から午後3時30分
午後3時35分からセルフ貸出機等の見学
- 場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：鈴木裕之、鈴木陽子、田中さゆり、大橋八重子、鈴木眞澄、
青島公悦、鈴木弥栄子、菅 久美、鈴木敬代(以上敬称略)
- 事務局等：
中央図書館：岡本由紀子館長、山中則明館長補佐、
長尾信貴主査、寺田知代主任
福田図書館：太田雄介館長
竜洋図書館：伊能明彦館長
豊岡図書館：高橋道博館長
にこっと：兼子順子館長
学校教育課：加藤智慧子指導主事
- 傍聴人 0名

□内容 以下のとおり

議事(1) 令和4年度事業の取組状況について

1. 令和4年度主要事業について(以下、事務局)

「情報発信の強化」

- これまでの情報発信の方法は、ホームページ及び図書館だよりが主なものであったが、図書館システムの更新に伴うホームページの刷新に加え、7月からは図書館独自のインスタグラムを開設した。各図書館で実施したイベントや特設コーナーなどの写真を積極的にアップし、PRに努めている。また、10月からは図書館システムとLINEとの連携を開始し、図書館からのお知らせや予約資料の案内だけでなく、利用者カードのバーコード表示や資料検索を可能にするなど、利用者サービスの向上を図った。

「電子書籍サービス推進事業」

- 新たな利用に繋げるため、8月から児童書や学習まんが、ポルトガル語の絵本などの提供を開始した。今後も利用者ニーズの把握に努めるとともに、他自治体の状況を注視しながら電子書籍サービスの充実を図っていく。

「その他の事業」

- 福田図書館で開館20周年を迎え、閉館後の図書館を会場としたコンサートや、職員手作りのオリジナル人形劇など、職員が一丸となって工夫を凝らしたイベントを実施した。

資料1の5ページ以降にそれぞれの館で実施したイベントなどの活動状況を抜粋して掲載した。併せて、上半期の貸出ランキングベスト20も掲載した。

「事業報告(令和4年4月～令和4年11月)」

- 令和4年度は図書館システムの更新作業のため全館10日間を閉館したことにより、利用者数、貸出冊数ともに前年度より減少となった。

利用者数については、にこっと及びながふじ図書館を合わせた6館合計が、前年度の同時期と比較すると約4%の減、貸出点数については約8%の減となった。

2. 図書館の IC 化について（以下、事務局）

「進捗状況」

- ・図書館における新たな DX の取り組みの一環として、図書館の資料に IC タグを貼付し、それに併せて IC タグ対応機器の導入をする。令和 5 年 3 月までに資料への IC タグの貼付及び機器の設置を完了し、令和 5 年 4 月からの本格稼働を予定している。

「目指す効果」

- ・① IC タグ対応機器の導入により、資料の返却や貸出作業を利用者がスムーズに行える。
- ・②（第 1 回協議会で質問のあった資料の持ち去りについては）IC セキュリティゲートの設置により防止できる。
- ・③ IC 蔵書点検システムの導入により、効率的に蔵書点検ができる。

〈質疑・意見〉

○IC 化について、ゲートを通ることで不明本が無くなるということだが、蔵書点検などの際に整合性が取れるということか。

（事務局）

その通り。棚の後ろに落ちてしまっている本なども検知するため、蔵書数の整合性が取れる。

○「わたしのひとこと」の中に、飾ってある花に癒されるという意見があり、全く同意見。

にこっとにはヤギがいるし、竜洋には講座体験の様子が掲示されている。本以外にも利用者を呼び込む館独自の取り組みがあるのは素晴らしい。

○貸出ベストを出してもらえるのは嬉しい。若いお母さんたちが絵本を借りる時の参考になり、とても助かる。次回もぜひ出してほしい。

○図書館に愛称をつけてはどうか？もう少し身近に感じられるように考えてみては？

例えば「よみりあ中央」など。

（事務局）

それぞれの地域に愛される図書館があるのは地域の誇りであると思っている。より良い方向にできるように考えていく。

○閉架本にも IC タグを付けるのか。

（事務局）

付ける。

○資料の弁償について、IC タグ貼付前は単純に本代だけだったと思うが、貼付後は IC タグ分も弁償対象になるのか？その場合は、事前に市民に伝えておくべきではないか。

（事務局）

現時点では、汚損・破損・紛失が弁償の対象と考えている。IC タグの弁償代は請求しない予定。

3. その他〈セルフ貸出機及びながふじ図書館の見学〉

中央図書館内のセルフ貸出機の見学を行った後、ながふじ図書館に移動し、施設内を見学。